白山さん

「野菜宝船（奉納：JA白山大神支店・青壮年部）」

第451号　令和8年11月1日

神道講話

豊かな実りの秋 収穫感謝を祝う

社頭あれこれ

向春詣（年内）と初詣（新年）のご案内

白山社めぐり・祭典・行事案内 他

石見神楽　演目：「大蛇」

神道講話

豊かな実りの秋 収穫感謝を祝う

宮司　寺本 義弘

はじめに

天高く馬肥ゆる秋、里々のお社では天地の恵みを戴いて、秋の豊かな実りが得られたことに感謝し、笛や太鼓の音に包まれ、神輿が街を練り歩き新穀への感謝を捧げる秋まつりの季節を迎えました。

一昨年一月一日に発生した能登半島地震。家屋をはじめ農地・神社のお社にまで大きな被害が及びました。また、被災された住民の皆様には他地域での避難生活を余儀なくされ、結果地域住民の減少も進み、これまで神様への感謝の気持を込めて、春夏秋冬に執り行われてきた祭りも、斎行することが難しい状況となっておりました。

その様な状況下、能登地方ではユネスコ文化遺産として、県文化財として登録されていた「青柏祭」や「あまめはぎ」「あえのこと」をはじめ多くのお祭が今年復活・斎行され、「でか山」や「きりこ」が街を巡行し、多くの人々が集まり、ご社頭をはじめ街中が賑わいました。お祭は地域に人々を呼び込み賑わいをもたらしました。

お祭が、能登復興の狼煙となり氏子の皆様が戻られ、地震前の原風景が蘇って来ますよう切に願います。

私は、島根県浜田市で生まれ育ちました。秋になると、里々のお社では秋祭が行なわれ、神様に石見神楽を奉納し、共々に豊かな恵みに感謝の誠を捧げます。

今回は、この石見神楽について、ご紹介させて頂きたいと存じます。

石見神楽

島根県西部（石見地方）に伝わる民族芸能舞で、秋の豊かな実り・漁業の豊漁・商売繁盛を神職が民衆に替わって感謝の気持ちを神様に奉納した舞が土台となって拡がり、明治以降は氏子が神楽社中（主な氏子地区で神楽愛好家団体で、氏子地区からの要請で神社に出向いて神楽を奉納する）を結成し、民衆芸能として秋祭りを中心に、豪華な衣装に身を包みテンポの速い拍子に合せて舞う神楽をこう呼びます。

秋の刈り入れを終えた頃（九月下旬～十一月初旬）各集落の神社では秋祭りが行われ、当日はお昼過ぎから大人や子供達が神社に集まります。神社からは、神輿と共に獅子舞が繰り出し、氏子の家々を回り「御花」（祝儀）を貰い、獅子は家族の頭を噛みつき、すると「頭が良くなる」「健康になる」と教えられ、子供達は「僕も・私も」と頭を差し出して噛みつかれます。子供はつ

青柏祭　写真提供：石川県観光連盟

いて回って、お菓子やジュースを貰ったりするのが楽しみでした。

夕暮れ時になると、子供達は自分の家に仲の良い友達（三～四名）を誘い、お母さんは今年採れた食材で腕を奮って美味しい料理を沢山作ってくれました。この時の定番が「角すし」（新米で作った酢飯に牛蒡・椎茸・人参を混ぜ込み五cm角の木型に入れ押し固め上に錦糸卵・山椒・桜でんぶを添える）、ジュースやサイダーも提供して貰いお直会（食事会）。たまに担任の先生もなだれ込んで来る時もあり一緒に食事をしながら楽しい一時を過ごしました。こうして、ご馳走を戴き直会が終わると、暫く休憩、午後十時位になると神社から神楽太鼓・笛の音が聞こえ、三々五々神社に足を運びます。この時、直会で戴いた料理・角すしを重箱に詰めお菓子や飲み物と共に、毛布を持参し神社へ向かいました。

お祭りで振る舞われる「角すし」

ご馳走を食べながら「神楽見物」

神社に到着すると、拝殿に向かい右側に○○社中と書かれた立派な幕が飾られ、神楽社中が神楽舞をする楽屋として使用、中央で神楽舞・残り三方が神楽の見物席。大人や子供は夫々に持参した毛布に足をくるみ席を確保。場所取りは早い者順で近くで見たい人、後方で壁に背もたれながら見る人、夫々で、神楽は夜を徹して朝方七時頃迄奉納され、見物客は、お寿司やお菓子を食べお酒やジュースを飲んで、朝まで神楽を楽しみます。

石見神楽の演目

神楽は、大太鼓・小太鼓・笛・手拍子で演奏。楽に併せて舞があり途中で口上があり進んで行く。殆どは鬼（悪魔）が顕れ暴れて、神様が退治するという戦いのストーリーが多いが、一番最初に演じられるのは、神職が神楽を始める旨の祝詞を奏上したあとに、「神迎え」と言って、舞子四名が白衣・袴・烏帽子・狩衣姿で、左手には御幣を右には扇・鈴・鉾・矢を夫々に持ち、東・西・南・北・中央とお祓いをし、五方の天神地祇にご降臨を願う神楽舞で「石見神楽」の幕は切って落とされます。

神楽の演目は、「五穀種元（ごこくたねもと）」「鍾馗（しょうき）」「塵輪（じんりん）」「黒塚（くろつか）」「天神（てんじん）」を始め「大蛇（おろち）」に至るまで、三十数演目にも上り、その内容は神々の心を鎮める舞から、古事記・日本書記を題材にしたものなど様々な内容のもので構成され、一つの演目に要する時間は約四十～五十分程で、明け方までに十から十一演目が奉納されます。

五穀豊穣に感謝 神楽「五穀種元（ごこくたねもと）」

石見神楽は、氏子が神楽社中に依頼し、神楽舞を氏神様に奉納します。この中で秋の収穫を祝い無事に農作業が行われたことに感謝の気持ちを顕し奉納する神楽舞で一番解かり易いのが「五穀種元」で、内容はこうです。

天上界の神々が保食神（うけもちのかみ）に食物を所望したところ、鼻や口・尻から様々な美味しいものを出してご馳走を作った。これを見ていた月夜見命は、汚い方法で食物を調理提供したことに腹を立て女神を殺します。すると、目から稲・頭から蚕・耳から粟・鼻から小豆・陰部から麦・尻から大豆が産まれました。この品々を天熊人命（あめのくまひとのみこと）が預かって地上に降り立ち、村君（首長）はじめ村人と出会います。荒地であった村の様子を見た命は、村人に鋤と鍬を与え開墾をさせ、山肌には桑を植え養蚕。平地には稲・粟・小豆・麦・大豆を植え、秋には豊かな稔りが得られます。

すると、村君から「新穀感謝のお祭りをしよう」と言う事となり、神禰宜（宮司）のもとへ行き、杵と臼を借りて餅つきをし、この餅は五穀と共に神前にお供えします。

石見神楽　演目：「五穀種元」

神禰宜は餅つき会場に現れ、祝詞を上げて豊年満作のお祭りをします。所謂「新嘗祭」に当たる神楽舞です。

最後にお供えした餅は、太鼓や笛に合せ舞いながら見物客に振る舞います。

神楽での口上は、石見弁を交えながら見物客に請けるように冗談を交えた会話（茶莉）で語りかけ舞子・見物客共に楽しむ神楽です。

終わりに

今年も、秋祭のシーズンを迎え、都会に出ていた若者も帰郷し、氏子と共にお祭に参列。夜は石見神楽を楽しみ、地域に賑わいを見せてくれました。

「石見神楽」、今から五十六年前（昭和四五年）に大阪万博の会場で上演され、全国に知れ渡り、国内はもとより、ドイツやアメリカを始め、五十を超える国々で公演されました。

全国どこからでも依頼があれば伺います。

社頭あれこれ

①第七十七回石川県下学童 白山比咩神社境内写生大会 表彰式開催

四月二十九日から八月三十一日にかけて境内写生大会が開催され、県内の幼稚園から小中学生までの子供たちが、社殿や狛犬など様々な絵を描きました。

作品は計一四八点提出され、県内美術教諭をはじめ十二名の審査員による厳正なる審査の結果、入選作品八一点が選出されました。

神社の建物や神馬・狛犬・ご神木さらには近隣施設スカイ獅子吼など、微細な部分まで描くことは、子どもにとって難しいことではありますが、どの作品も、大変気持ちがこもった素晴らしい作品ばかりでした。

九月二十日に奉告祭並びに表彰式が行われ、入選者には神社並びに後援の「北國新聞社」「㈱アストラム(ぺんてる)」から賞状と賞品が贈呈されました。

また、後援の㈱大和香林坊店(金沢市百貨店)八階特設会場において、九月二十四日から十月七日に亘り入選作品が展示され多くの方にご覧頂きました。

●特選　10名

つるぎこども園	山岸　旺誠
兼六小学校1年	中村　晃己
押野小学校2年	林　柚希
明成小学校3年	前田　宗摩
朝霧台小学校4年	名古屋　董
東明小学校5年	橋場　心咲
松南小学校6年	濱東　初夏
松任中学校1年	稲葉　真悠子
松任中学校2年	池田　優美子
金沢大学附属中学校3年	杉盛　日向子

第77回特選屏風

②中秋の祈り～月の神様に感謝～開催

九月二十五日は、旧暦の八月十五日「十五夜」にあたり、月明かりの下で境内が彩られる中、「中秋の祈り」が開催されました。

向拝には「絆」「援」と書かれた大幕を掲げ、平和を表す黄色と青色の光でライトアップし、竹灯籠などで境内を彩りました。

第一部として、女性二名の和太鼓ユニット「響架」と、小中高生の和太鼓グループ「サスケ」十名による太鼓の演奏が行われました。

響架は「麗」・「和楽」の二曲、和太鼓サスケは「信」をはじめ四曲披露して頂きました。

第二部は、能登半島地震をはじめ、自然災害の被害で苦しむ被災地の復興と世界の平和を願い黙祷を行い、舞女による「浦安の舞」が奉奏されました。

第三部は、イルミネーションに照らされた祓場に水上特設ステージを設置し、神職が「朝日舞」を奉奏しました。

また境内では、裏千家淡交会高來宗吾社中ご奉仕による「観月茶会」が催され、抹茶と月見団子を頂きながら、秋の風情を楽しみました。

響架による太鼓の演奏

和太鼓サスケによる太鼓の演奏

③霊峰白山のつどい開催

十月六日午後四時よりホテル日航金沢において、全国白山神社の宮司・総代など約五十名のご臨席のもと「第十七回霊峰白山のつどい」を開催しました。

午後一時四十五分より当社において正式参拝、その後会場を金沢市のホテル日航金沢に移し、金沢学院大学名誉教授・白山本宮神社史編纂委員の東四柳史明先生による記念講演が行われました。

講演では「白山比咩神社の文化財～白山宮荘厳講中記録と加賀の中世史～」と題し、現在作製中の白山比咩神社史文化財編のダイジェスト版をもとにお話頂きました。

その後、懇親会が開かれ、参加者相互の親睦を深めました。

東四柳先生による講演

④宝物館特別展示

霊峰白山のつどい開催に併せて、十月一日から十二日の期間、約三十年ぶりに重要文化財「牡丹文螺鈿鞍」が当館にて展示されました。また、秋の特別展として、当社所蔵の重文、白山三社神像・白山縁起・神皇正統記などの宝物を一斉に展示しました。

期間中多くの拝観者が、重要文化財の本物を目にし、その魅力を堪能しました。

重文「牡丹文螺鈿鞍」

⑤加賀一ノ宮敬神婦人会秋季総会開催

十月八日、加賀一宮敬神婦人会・神谷ますみ会長以下会員三十四名参加のもと、秋季総会奉告祭が斎行され、引き続き「遊神の間」にて総会並びに講演会が開催されました。

講演会では、創業八十年を越す金沢市の老舗、㈱清香室町社長田中尚行氏により「清香室町の八十年と金澤文鳥が教えてくれたこと」と題して講演を頂きました。

講演では、創業から受け継がれてきた菓子づくりの技術と、新しい時代に向け工夫をこらす大切さなど分かりやすくお話頂きました。

田中社長による講演

⑥秋の実りに感謝抜穂祭斎行

十月十八日、氏子白山町内の奉耕田にて抜穂祭を斎行しました。

五月に斎行された御田植祭後より大切に栽培され、たわわに稔った稲穂を、地元の小学五、六年生・中学一年生の早乙女十五名が、一株一株感謝を込めて刈り取りました。

当社のイセヒカリの稲穂は「懸税（かけちから）」として、伊勢の神宮へ奉納致しました。

早乙女による抜穂の儀

向春詣と初詣に向けてのご案内

正月授与品頒布開始

❖ 向春詣（年内）

12月1日から同月の31日午後2時半までの期間「向春詣」として、ひと足早く、令和9年の神宮大麻や、神符・正月の縁起物（破魔矢・昇運凧等）を授与致します。

❖ 初詣（新年）

1月1日より2月3日の節分までは、新しい年の福運と延寿を祈る「初詣」の期間としております。

干支張り子(未)

初詣期間の授与所について

3ヶ日の期間、境内3ヶ所に授与所を設置します。
いずれの授与所でも御守・縁起物をお受けいただけます。

授与所開設時間

元日～2日	午前零時（1日）～午後11時（2日）
3日	午前7時～午後6時
4・5日	午前7時半～午後5時
6日以降	午前9時～午後4時

新年初祈祷（昇殿参拝）について

12月31日午後11時より、ご祈祷の受付を開始。

元日午前零時より、家内安全・生業繁栄・交通安全・厄除開運・学業成就・合格祈願などの新年初祈祷をご奉仕します。

尚、令和9年の新年初祈祷の方々への「除災招福金幣」の頒布は、午前3時の「頒布祭」斎行後からとなります。

また、交通規制の為、「お車の祓い」は1月7日からご奉仕致します。

初祈祷受付時間

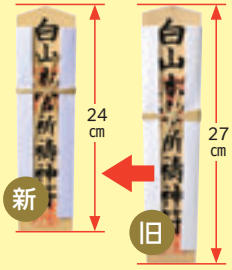
元日	午前0時～午後7時
2・3日	午前7時～午後5時半
4・5日	午前9時～午後4時半
6日以降	午前9時～午後4時

※初詣・交通情報はホームページ・SNS等で、随時お知らせ致します。

「祈祷木札」サイズ変更のお知らせ

令和九年初詣より、ご祈祷のお下がり「祈祷木札」のサイズが変わります。

※ご祈祷初穂料弐萬円以上お納めの方が対象になります。



白山さんの「左義長祭・どんど焼き」について

どんど焼きは、「お正月に歳神様をお迎えするために飾ったしめ飾りなどを小正月（1月15日）に焼納し、歳神様をお送りする」という神様に感謝を申し上げる神事です。

■左義長祭 1月15日 午前10時斎行　**■どんど焼き** 午前11時～午後2時まで

どんど焼きで焼納するしめ飾り等の受け入れは、午後2時で終了となり、以降お持ち頂いた分は、後日お祓いをして焼納致します。

また、当日は混雑が予想されます。前日までにご持参いただき、お預かりすることも可能です。

お預かり可能なもの

記

御札・御守・破魔矢・書き初め・しめ飾り（橙や干し柿は外して）・神棚（燃えないもの、ガラス等は外して）

上記以外はお預かり出来ません。

うらら白山人秋祭どんじゃら市2026

（白山市観光連盟）

日　時　令和８年11月14日（土）午前10時～午後４時／15日（日）午前10時～午後３時

開催場所　白山比咩神社北参道駐車場

白山の恵みに感謝する収穫祭として、白山市の海から山まで、美味しい秋味や雑貨などが大集合します。
ステージイベントとして、14日には白峰の伝統芸能「かんこ踊り」、15日には鶴来萌雅会による「雅楽」の演奏が行われるなど、見どころ満載。
白山比咩神社周辺を巡るガイドツアーも開催されます。
ユネスコ世界ジオパーク認定の白山手取川ジオパークの魅力を存分に楽しみましょう。

予定のステージイベント

14日（土）

- ■ 11時　かんこ踊り(白峰かんこ踊り保存会)
- ■ 12時半　獅子舞（鶴来赤獅子保存会）
- ■ 14時半　太鼓演奏（つばき）

15日（日）

- ■ 11時　石川県ふれあい昆虫館
- ■ 12時半　太鼓演奏（夢み隊）
- ■ 14時　雅楽（鶴来萌雅会）

詳　細
▶白山市公式観光サイト
うらら白山人

問合せ
▶白山市観光連盟 TEL 076-259-5893

白山社めぐり(200)

白山神社

鎮座地　羽咋市滝町ワ三二二
御祭神　菊理姫神・天照大御神
例祭日　四月十八日
宮　司　新田　哲生

由緒

創祀の由来は明らかではありませんが、気多神社の摂社（菊理姫命）の分霊を奉祀したものだともいわれ、往昔より滝部落の産土の神として鎮祭されてきました。

明治の初めまで本地仏として奉斎された十一面観音は、往昔に桃の木に乗じて滝浦に漂着したと伝えられています。しかしながら、明治の神仏分離にあたって、十一面観音は一ノ宮西教寺に預けられ、後に、滝に堂宇を建て、安置されてきました。

明治以前は社名を「湍津姫社」と称えており、これは鎮座地の「滝」に因んだものであると思われます。

また、相殿の天照大御神は、元々、野村神社（神明宮）に奉祀されており、明治四十年に野村が滝部落に合併された際に、本社に合祀されたと伝えられています。

社殿

祭典と行事のご案内

11月

3日 午前10時 明治祭
午前11時 五味島神社常例祭

11月23日 午前10時
新嘗祭お知らせ

昨年に引き続き新嘗祭で、収穫感謝の願いを込めて、JA白山大神支店・青壮年部より、「野菜宝船」をご奉納いただきます。併せて「物販販売や、おむすび・めった汁の振る舞い」も予定しています。是非お越しください。

（野菜宝船）

12月

15日 午前10時 煤払祭
27日 午前9時半頃
大注連縄張り替え
（氏子青年会・あしめる会）
31日 午後3時　年越大祓
午後4時　除夜祭

毎月

おついたちまいり
午前4時半より祈祷奉仕
（但し、元日は除く）
1日・15日　午前10時　月次祭
15日　交通安全祈願祭

ー祝祭日には国旗を掲げましょうー
■11月3日(文化の日)　■11月23日(勤労感謝の日)

白山茶会のご案内

奉仕日
11月8日　髙來宗吾社中（金沢市天神町）
12月6日　南川宗和社中（金沢市材木町）

■時間：午前10時から午後2時まで　■場所：遊神殿ロビー
※お気軽にお楽しみ下さい。(無料)

令和九年 厄除け・還暦祝いのご案内

厄除け

男性	女性
◇49歳(昭和54年生)男	◇37歳(平成3年生)女
◇42歳(昭和61年生)男(大厄)	◇33歳(平成7年生)女(大厄)
◇25歳(平成15年生)男(大厄)	◇19歳(平成21年生)女(大厄)

還暦祝い

◇61歳(昭和42年生)男女〈厄年にもあたる〉

※いずれも年齢は数え年です。

編集後記

▼段々と年齢を重ねる毎に、時の流れが早く感じるように思います。白山の夏山・秋山シーズンも終わり、早くも十一月を迎えました。境内の木々は鮮やかに紅葉し、すっかりと秋らしい姿となり、七五三詣の子供たちが嬉しそうにしている声が、境内から聞こえてきます。▼今年も残すところ、あと二ヶ月、神社では正月に皆様をお迎えするための準備を、着々と進めているところであります。▼皆様におかれましては、穏やかに新しい年を迎え、幸せに満ちた明るい年になりますことをお祈り申し上げます。

（拳）

白山さん　第451号
令和8年11月1日発行

発行所 ■白山本宮 加賀一ノ宮 白山比咩神社
〒920-2114　石川県白山市三宮町
TEL (076)272-0680(代)
FAX (076)273-0933

編　集 ■藤基 拳志郎

印　刷 ■高桑美術印刷株式会社

E-mail
hakusan@shirayama.or.jp
HP
https://www.shirayama.or.jp